

平成23年度 緑苑 事業計画概要

<p>【前年度の概況】</p> <p>1. 養護老人ホーム ①月初入所者延数-率 591/600-98.5% ②2月末現在入所5名、退所6名(特養入所3名、永眠2名、長期入院1名) ③要介護者増で通院援助等の直接援助が増した。関係機関との連携を図った。</p> <p>2. 特別養護老人ホーム ①2月末現在 平均稼働率 95.4% (内空床ショート0.6%) ②2月末現在入所7名、退所8名(永眠6名、長期入院2名) ③東京都実地検査を受け、個別機能訓練計画説明、記録について指摘あり、改善報告する。</p> <p>3. 自立支援ショート ①2月末現在 利用率 57.3% ②虐待等の緊急避難的な利用をうけた。(4件)</p> <p>4. 在宅介護支援センター ①府中市第一地区の緑町と浅間町2町(高齢者人口2113名・高齢者率15.9%)を担当。 ②高齢者の福祉相談、介護予防見守りネットワーク事業を展開。 ③災害時要介護者対策事業に基づき、地域支援と実態把握した。</p>	<p>【前年度目標・課題】</p> <p>◇共通課題 1. 特養増築計画実施にむけ19回の増築作業委員会で安全確保と運営方針を整理した。 2. 福祉施設の医療について、痰の吸引看取り介護など考え方の整理を中心に確認した。 3. 職員の育成について、各部署が中心となった研修に取り組み、気づきをうながした。 4. 各会議を中心に防災・事故対策・感染症防止に取り組むと共に、工事中の安全を確認した。 5. 地域福祉拠点となる施設作りのため支援センターを中心に取組んだ。</p> <p>◇養護老人ホーム ・外部介護サービスの検討の中から公的老人福祉施設【養護】の役割が果たせるよう施設での暮らしを続けられる援助の明確化に努めた。</p> <p>◇特別養護老人ホーム ・生活環境整備に努める中で、個別の状況にあったケアを行い、その記録を活かしわかりやすいケアプラン作成に努めた。</p> <p>◇在宅介護支援センター ・福祉拠点となる施設づくりにむけ連携のよい組織を築くために情報の共有化をはかり、担当ごとの責任体制を明確にすることを課題とした。</p>	<p>【新年度重点目標】</p> <p>共通課題 1. 緑苑施設整備(特養60ベッド等増築)の2年目を迎える 利用者の安全な生活の確保と増設後の事業運営の具体化に取り組む。 ・開設準備担当を配置する。 ・本部連携の下、人材の確保に取り組む ・関係機関との連携を基に入所対象者の選考に取り組む ・フロー(ユニット)単位の生活援助を組み立てられる職員の育成(内外実習研修への参加) ・既存施設の整備(厨房備品整備等)</p> <p>2. 福祉拠点としての施設づくり ・福祉拠点となる施設づくりにむけ連携のよい組織を築くために情報の共有化をはかり、事業ごとの責任体制を明確にする。 ・平成24年度の地域包括支援センター化の準備(担当地区変更、予防プラン引継ぎ)</p> <p>3. 人材育成と職員連携 ・気づいて実行できる、人にやさしい職員 ・定常業務が確実にこなせる職員 ・職員間の情報共有</p>	<p>【施設管理運営目標】</p> <p>1. 個々の職員が自らの役割を理解し責任が果たせるとともに、人(利用者・地域・職員)に優しく気配りのできる職員の確保と育成する仕組みを構築する。</p> <p>2. 無理無駄を省き、限りある資源(水・電気・人材・資材)を大切にすることを常に意識して業務にあたる。</p> <p>3. 法令を遵守し、業務管理体制を整備する。</p> <p>4. 常にリスクへの意識を絶やさず、危険要因を察知し未然に防ぐ日頃の備えを欠かさずに行うことで、安心感のある安全な施設を構築する。 特に増築工事の2年目となり生活活動範囲が狭まる中で、安全な生活の確保に重点をおく。</p> <p>【施設内共通支援目標】</p> <p>1. 養護老人ホーム信愛寮・特別養護老人ホーム信愛緑苑・自立支援ショートステイの利用者が安心して安全に暮らせるよう一体的な支援援助を実践する。</p> <p>2. 平成23年度から地域包括支援センター緑苑として、包括的な総合相談窓口施設機能を活かしつつ、地域福祉の拠点となる施設として、初期相談から在宅サービスの提供、施設入所に至るまで継続的な支援を実践する。</p> <p>3. 個別援助計画を基に支援援助を実践する。利用者の生活の証を記録し、定期的な計画に沿った実践になっているか評価を行い、安定した生活の維持がなされているか確認できるよう取り組む。</p>	<p>【法人本部】</p> <p>1 職員の育成 ① 福祉職のプロを育成する ② 未来につながる中堅層の意図的育成</p> <p>2 サービス向上 ① 法人としてのサービスの平準化 ② 地域拠点としての施設機能強化 ③ 家族支援システムの定着</p> <p>3 業務管理体制推進 ① 適正な人員配置に基づく組織づくり ② それぞれが責任をもった管理体制の徹底</p> <p>4 施設基盤の整備 制度改革がすすむの中で社会福祉法人としての基盤強化する。 2000年以降新たな環境を乗り越えるために 第1期 課題整理と基本的対応(～2004年) 第2期 具体的な体制整備(2005年～2010年) 法人全体でとりこんできた2011年からの当面3か年を第3期と位置づけ第2期の取り組みを定着、浸透させる。</p>
---	--	--	--	--

滞在系			連携		訪問・在宅支援系	事務
ホーム(特養)	ホーム(養護)	自立ショート	食事	看護・機能訓練	包括支援	会計・庶務・事務
<p>1. 増築工事が行われる中で、ご利用者の日常生活に支障がでないように、最大限の安全で安心した生活の確保を他部署との密な連携で確立していく。</p> <p>2. 生活リズムを五感で感じ、より活動的な生活をする中でぬくもりとゆとりを提供する。 ・住空間を整え、週間予定表に沿った定常業務を行う ・適切な介護用品を提供する。</p> <p>3. 心身の状況を日常生活の中で把握し、個別の状況を反映させたケアプランを作成する。 ・日々の記録(各状況表)をリーダー・係長が把握して情報をケアマネと共有する。 ・ケアマネが中心となり、各部署(訓練・看護・食事・介護)の意見をまとめながら、必要があればプラン作成につなげ介護の継続性を高める。</p> <p>4. 介護力の向上を図るため実践的な研修を行う。</p>	<p>1. 増築工事が行われる中で、ご利用者のストレスを和らげる対応をする。 ・小さな空間を使って「ほっとできる時間」作り</p> <p>2. 利用者に養護老人ホームの役割を伝え、個々の生活を組み立てられるよう支援する。 ・1日でも長く生活を維持できるように、見守りそれぞれの役割を持ってもらう。 ・要介護者への直接介助をする中で、虚弱になった時の安心感を伝えると共に、相談員は先を読んだ対応をする。</p> <p>3. 自立支援ショートステイ・ほっとサロン利用者との交流をすすめる。</p>	<p>1. 地域での生活を継続できるよう、日常生活のリズムを整え、健康管理や食事提供をしながら支援する。</p> <p>2. 利用にあたっては、利用者の状況を捉え、関係機関との確認を行う。</p> <p>3. 利用者の情報を共有することで、正確な記録実績の集計を行う。</p> <p>4. 緊急ケースの受入れにあたっては、府中市包括支援センターからの依頼を受け、次の援助につながるよう協力する。</p>	<p>1. 家庭の味を基本に、四季の行事食で彩を加えた食を提供する。</p> <p>2. 増築後の厨房サテライト化を見据え、衛生管理を強化する。</p> <p>3. 地域利用者へも目を向けた食の提供をする。</p> <p>4. 業務の幅を広げる人材育成を進める。</p>	<p>看護 1. 利用者職員の健康管理の充実と新規採用時健康診断がスムーズに行くように関わる。 2. 利用者全般の重症化に見合った医療対応をする。 3. 感染症予防と対策に通年で取り組む。</p> <p>機能訓練 1. 個別機能訓練計画に基づき訓練の実施をする。 2. 訓練内容の情報共有と記録の整理を行う。 3. 利用者ニーズにあった自助具・補助具の提供と適正管理を行う。 4. 転倒事故分析と転倒予防による生活範囲を維持する</p>	<p>1. 地域包括ケアとしての委託業務を行う (1)総合相談・支援事業 (2)虐待防止・権利擁護事業 (3)包括的・継続的ケアマネジメント (4)介護予防支援事業 (5)介護予防ケアマネジメント(23年度は委託なし) (6)任意事業 (7)その他委託可能な事業</p> <p>2. 緑苑包括としての動き ・府中市地域包括支援センターあさひ苑と連携のもと委託1年目の地域包括支援センター(サブセンター)としての業務を確実にやり、平成24年度に担当地区変更と予防プラン引き継ぎ等の準備の年とする。 ・特別養護老人ホーム信愛緑苑増築工事に伴い、地域と施設のパイプ役としての機能を十分理解した上で地域包括支援センターとして役割を果たす。</p>	<p>1. 業務のスリム化と効率化にむけ、事務局本部と施設サービス部門との連携を深め会計・庶務・システム業務を担う。</p> <p>2. 各種関係法令および規程等を遵守し適正な業務を行い、あわせて、24年度適用予定の新会計基準へ向けて準備を行う。</p> <p>3. 収入をベースにした収支の管理を行い、月次において予算の執行状況、終始状況を把握し安定した経営につなげる。</p> <p>4. 事務局本部と施設管理部門と連携し、緑苑増築計画に伴うさまざまな関係書類の作成、事務手続き等を遅延なくスムーズに行う。</p>